

平成 26 年度事業報告

自 平成 26 年 4 月 1 日
至 平成 27 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

I. 当法人の事業の状況

① 常置委員会活動

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(4)
3. 編集委員会	(4)
4. 学術委員会	(5)
5. 統計調査委員会	(7)
6. 専門医制度委員会	(8)
7. 国際学術交流委員会	(12)
8. 評議員選出委員会	(13)
9. 保険委員会	(13)
10. 倫理委員会	(14)
11. 腎不全総合対策委員会	(14)
12. 危機管理委員会	(15)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(15)

II. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事	(16)
(2) 監事	(16)
(3) 評議員	(17)
(4) 退任した役員等	(22)
(5) 役員等の報酬等	(23)

② 会員に関する事項 (23)

③ 職員に関する事項 (23)

④ 役員会等に関する事項 (24)

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項 (28)

⑥ 重要な契約に関する事項 (28)

事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(29)
2. その他の記載事項	(30)

I. 当法人の事業の状況

①常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第59回日本透析医学会学術集会は、大阪大学大学院医学研究科 腎疾患統合医療学 寄附講座教授 椿原美治会長が主宰し、平成26年6月13日（金）・14日（土）・15日（日）の3日間に亘って、神戸国際会議場等を会場として開催された。今回のメインテーマは「考える透析」を掲げて開催され、参加者は18,080名であった。

<特別講演>

「腎臓 EPO 産生細胞を巡る最近の話題」

「診療報酬改定の目指すところ」

「リーダーシップと強い組織作りを考える」

「超高齢者医療の重要性」

<会長講演>

「わが国の統計調査から見た腎性貧血治療の変遷～ガイドライン改訂を見据えて～」

<招請講演>

「Advances in the Management of Renal Anemia」

「Perspectives on Dialysis Therapy in the United States : Growth and changes under the new Prospective Payment System “Bundle”」

「KDIGO CKD-MBD Guidelines Revision-or not?」

<シンポジウム>

「今後のCKD-MBD療法を考える」9題、「透析患者からみた理想的な保存期管理法を考える」7題、「我が国のPD療法の課題と展望を考える」6題、「腎臓の再生医療を考える」5題、「透析チーム医療における専門資格の意義」6題、「透析患者の脳血管障害 Up-to-date」5題、「透析施設経営の未来を考える」6題、「高齢透析患者対策を考える」5題、「透析患者の栄養障害に対する新たなアプローチ」5題、「透析患者の心不全対策を考える」6題、「透析現場における腎移植患者をどの様に診療するか」5題、「終末期の看護を考える～意思決定にどうかかわれるか～」5題、「日本透析医学会統計調査の課題と展望」5題、「腎性貧血治療の課題を考える」6題

<ワークショップ>

「腎性貧血治療の課題を考える」5題、「透析患者の感染症：診断と治療」6題、「長時間・在宅血液透析」5題、「透析医療における電解機能水の有用性と将来性」4題、「至適透析液電解質組成を考える」7題、「通院困難透析患者への対応を考える」5題、「各バスキュラーアクセスの問題点と解決策」9題、「透析患者を支える家族ケアを考える Keyword：家族支援における看護の役割と課題」6題、「on-line HDFの普及と課題を考える」5題、「透析治療におけるIT化を考える」5題、「透析液濃度測定の標準化を考える」5題、「透析領域のモニタリング技術を再考する」9題、「セルフケアの効果的支援を考える」5題、「血液浄化法による薬物除去について徹底討論する～この薬物は除去されるのか、どれだけ補充すればよいのか？～」4題、「透析患者の血圧管理を考える」5題、「透析患者の心腎関連と睡眠時無呼吸症候群」5題

<教育講演>

「腎移植—現状と展望—」「透析患者と腎癌」「多発性嚢胞腎患者の特徴と管理を考える」「透析患者の足を守る方策を考える」「透析患者を理解・支援するための看護理論—病みの軌跡—」「後天的に学べる優しさ

を伝える包括的ケア技術：ユマニチュード」「障害児の透析療法を考える」「種々の血液浄化器の特徴とその使い分け」「運動療法・リハビリテーションを考える」「急性血液浄化療法の進歩」「明日を担う若手医師とコメディカルスタッフのための EBM・診療ガイドライン入門～科学的思考を身につけるために EBM を利用しよう～」「観察研究のデータ解析：交絡と傾向スコア」「透析患者に関する医療裁判事例を考える」「透析患者の PCI 後の再狭窄の病態と予防・対策」「On-line HDF の正しい知識」「より長期の腹膜透析療法を目指して」「透析と酸化ストレスを考える」「ドライウエイトの設定の仕方を考える」「CKD 対策の現状と今後の展望」「長時間透析・深夜透析の効果と課題を考える」「CKD-MBD 対策を考える（薬物療法）」「CKD-MBD 対策（PTx の適応）—内科医，外科医の立場から」「CKD-MBD 対策（PTx の適応）～内科医の立場から」「塩酸シナカルセトのある 2014 年の PTx」「透析患者の骨関節障害と Aβ2M アミロイドシス」「糖尿病透析患者診療の特殊性—動脈硬化進展を踏まえて—」「腎不全とレニン-アンジオテンシン系～保存期から透析導入後までを考える～」「透析患者における終末糖化産物（AGEs）の意義を考える」「透析患者における酸塩基平衡異常のマネジメント」「血液透析領域におけるヘパリン起因性血小板減少症（HIT）の最適診断法と治療を考える」

<よくわかるシリーズ>

「PD/HD 併用療法」「透析患者の心電図の読み方」「抗凝固療法（急性血液浄化も含む）」「透析患者の足を守る方策～透析クリニックで行うフットケア～」「急性血液浄化の安全対策」「透析機器の機械操作に潜むヒューマンエラー」「透析掻痒症：原因と対策」「透析患者の骨折」「よくわかる透析患者の運動療法」「手根管症候群」「不均衡症候群，足のつり，けいれん 原因と対策」「AKI の病態と対策」「統計調査データの見方と解釈の仕方」「症例から学ぶ透析患者の感染症」「透析患者の心臓を守るためには」「腎性貧血治療の問題点」「血液ガス分析のファーストステップ～代謝性アシドーシスを中心に～」「透析指標の考え方」「透析患者の口腔病変の予防と対策」「on-line HDF の正しい知識」「透析患者の栄養管理～透析食の基本から応用への展開～」「MIA 症候群とは」「透析患者の脂質異常症と管理～Fire-and-forget って何？～」「認知症の早期診断と予防」「透析患者の患者指導」「透析患者のバイタルサインと観察ポイント」「患者心理とカウンセリングマインドを学ぶ」「腎移植希望患者のケア」

<ベーシックセミナー>

「英文論文 書き方の道しるべ（学術委員会合同企画）」「ビギナーのための Vascular Access 管理 作成編」「ビギナーのための Vascular Access 管理 使用編」「留学を目指す若手医師のための道しるべ（学術委員会合同企画）」「透析患者の血圧管理を考える」「透析患者の検査の知識：血液検査・心電図の読み方・胸部写真」「透析患者の手術，その注意点を考える」「腎臓病食事管理と食品学」「CKD-MBD 対策の基礎セミナー 血管石灰化・カルシウム・リン・PTH」「若手医師とコメディカルのための透析患者の薬物適正使用」「HIV 陽性透析患者への対応を考える」

<学会・委員会企画>

『学術委員会企画「わが国のガイドラインの検証と作成方法を再考する」』，『統計調査委員会企画「各国の透析 registry の比較（大会長企画合同）」』，『国際学術交流委員会企画「AKI 関連 AKI；diagnosis and future prospect」』，『総務委員会 腎不全看護師・栄養管理士ならびに腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関する小委員会企画「関連職種とのコラボレーション—新たな展開」』，『腎不全総合対策委員会企画「腎不全総合対策委員会報告」』，『学術委員会 血液浄化に関する新技術検討小委員会企画「新技術で開拓する新しい血液浄化法」』，『学術委員会 ガイドライン作成小委員会企画「コンセンサスカンファレンス：すべての CKD 患者に向けた腎性貧血治療ガイドラインの改訂」』，『学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会企画「新たな透析スケジュールに適合するシステム」』，『総務委員会 男女共同参画推進小委員会企画「専門医制度と女性医師」』，『国際学術交流委員会「International Session 1・2」』，『専門医制度委員会企画「患者のための透析医育成に向けて」』

<市民公開講座>

(1) 震災関連講座

- 1) 巨大災害に立ち向かう透析患者の取り組み
 - 2) 地震学の現状と限界～想定外を想定しよう
- 平成 26 年 6 月 15 日（日）に開催された。

(2) 市民公開講座

平成 26 年 6 月 22 日（日）グランフロント大阪 ナレッジキャピタル・コングレコンベンションセンターで開催された。

2) 通常総会・臨時総会

第 59 回通常総会を、平成 26 年 6 月 12 日（木）15：00～ 神戸市中央区港島中町 6-10-1 神戸ポートピアホテル 大輪田 C において、第 59 回通常総会を開催、定款第 30 号に基づき、定足数以上の評議員の出席が確認され、本総会は適法に成立した。定款第 28 条に基づき、第 59 回学術集会・総会会長である椿原美治会長が議長を務めた。各常置委員長から資料に基づき、平成 25 年度事業報告の説明及び平成 26 年度事業計画の報告があり承認された。平成 25 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等、平成 25 年度公益目的支出計画実施報告書、監事による監査報告があり承認された。平成 29 年第 62 回学術集会・総会会長候補として埼玉医科大学総合診療内科教授中元秀友先生を理事会で承認されたとの報告があった。

また、理事会で承認され、本総会に推薦された沼田 明先生及び槇野博史先生の名誉会員表彰と学会賞、奨励賞、コメディカルスタッフ研究助成者に、平成 26 年 6 月 14 日（土）神戸ポートピアホテル 第一会場ポートピアホールで授与式を行い、学会賞受賞者の記念講演を開催した。

通常総会終了後、引き続き新評議員による臨時総会を開催、定款第 28 条に基づき、臨時総会の決議により出席評議員の中から水口 潤先生が議長を務めた。投票により役員（理事 20 名、監事 3 名）を選任した。

3) 役員会

- ・常任理事会：平成 26 年 5 月 23 日、6 月 12 日、7 月 21 日、11 月 7 日、平成 27 年 3 月 27 日
- ・理事会：平成 26 年 5 月 23 日、6 月 12 日（臨時を含む）、7 月 21 日、11 月 7 日、平成 27 年 3 月 27 日
- ・監査会：平成 26 年 5 月 14 日

4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。

5) 小委員会

(1) HP・電算機小委員会

- ① 学会活動ならびに関連情報の公開・更新を行った。
 - a. 学術集会・総会等最新の学会情報を逐次掲載した。
 - b. 事業報告、事業計画、財務資料を逐次公開した。
 - c. 文部科学省、厚生労働省、関係省庁・関連団体からの通知を逐次掲載した。
 - d. 医療機器、医薬品の回収等、医療安全情報を逐次掲載した。
 - e. その他、会員関連情報を逐次掲載した。
- ② 各種委員会、小委員会、ワーキンググループ活動内容を積極的に HP に掲載した。
 - a. 最新の学会誌（日本透析医学会雑誌、Therapeutic Apheresis and Dialysis）の情報を掲載した。
 - b. 専門医制度関連の情報を逐次更新した。
 - c. 各種委員会からのお知らせを掲載した。
 - d. 新たに作成されたガイドラインを掲載した。
- ③ 会員専用ページの内容についてさらなる充実をはかった。
- ④ HP のリニューアルについて検討した。

一部をリニューアルした。

(2) 腎不全看護師・栄養管理士育成ならびに腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関する小委員会

- ① 第59回日本透析医学会学術集会・総会に委員会企画「関連職種とのコラボレーション—新たな展開」を実施した。
- ② 腎不全看護師育成に関する助言と問題点への対策を行った。
- ③ 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言と共同認定を行った。
- ④ 栄養管理士育成に係る問題点をとり上げ、対策を検討した。

(3) 感染調査小委員会

特に感染調査小委員会を開催して検討を要する問題点はなかったが、日本透析医会が主として作成した「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン（四訂版）」に参加した。

(4) 法人問題検討小委員会

一般社団法人に移行後、検討を要する問題点はなかった。

(5) 男女共同参画推進小委員会

第59回日本透析医学会学術集会・総会において委員会企画「専門医制度と女性医師」を行った。

6) 学会との連絡、協力関係

日本医学会（評議員・連絡委員・医学用語委員・代委員）

日本慢性腎臓病（CKD）対策協議会

透析療法合同専門委員会（日本腎臓学会・日本泌尿器科学会・日本移植学会・日本人工臓器学会・日本透析医学会）

内科系学会社会保険連合

臓器移植関連学会協議会

末期腎不全治療説明用小冊子作成

糖尿病性腎症合同委員会（日本糖尿病学会・日本腎臓学会・日本透析医学会・日本病態栄養学会）

登録腎生検予後調査検討委員会

先行的献腎移植申請審査会等

感染対策・災害対策・学術交流などに関し関連各学会等と積極的に協力、連携をむすんでいる。

2. 財務委員会

平成26年度事業として、日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した。また、各事業に対して経費節減を心がけ、平成27年度予算を作成した。

3. 編集委員会

1) 和文誌について

日本透析医学会雑誌を毎月1冊、2014年4月から2015年3月までに12冊発行した。

発行部数は月平均16,300部であった。

また、第59回学術集会・総会特別号（抄録集）をSupplementとして発行した。

・2014年4月～2015年3月の投稿数、掲載数

論文投稿数112編、受理数73編、掲載された投稿論文67編（内訳：原著32編、症例報告32編、その他3編）。採択率は60%であった。

その他、第59回学術集会講演からの依頼論文3編、委員会報告8編、ガイドライン等1編を掲載し、投稿論文を含め合計79編を掲載した。

・電子ジャーナル

引き続き科学技術振興機構（JST）のJ-STAGEにて和文誌の電子ジャーナルを公開した。

2) 欧文誌について

欧文誌は、Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) として、引き続き刊行した（2014年4月から2015年3月までに6回刊行）。2014年にはすべての投稿がOnline経由100%を達成した。また、インパクトファクターは1.532で、ここ10年で最高値であった。なおTAD全体の投稿論文数は214編であった。このうち、2014年の採択率は43.5%であり、ここ3年は安定しており50.0%以下となっている。なお投稿国は、日本>トルコ>中国>ドイツ>USA>台湾の順であった。

また、TADとは別に本学会独自の欧文誌を発行する件について、2015年度の創刊が理事会で承認され、出版社BioMed Central社との契約が締結された。

雑誌名はRenal Replacement Therapy (RRT)に決定し、創刊に向けて作業が開始された。RRTのEditor-in-Chiefには、編集委員長の重松隆理事が就任することとなった。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

<学会賞>

・平成26年度の学会賞は次の2編であり、6月14日の通常総会で表彰した。

鬼無 洋（名古屋大学）

「TGF- β 1 promotes lymphangiogenesis during peritoneal fibrosis. Journal of the American Society of Nephrology 2013 ; 24(10) : 1627-1642.」

寺脇博之（福島県立医科大学）

「Pigment epithelium-derived factor as a new predictor of mortality among chronic kidney disease patients treated with hemodialysis. Therapeutic Apheresis and Dialysis 2013 ; 17(6) : 625-630.」

<奨励賞>

・平成26年度の奨励賞は次の1編であり、6月14日の通常総会で表彰した。

松浦香織（川島病院）

「外来血液透析患者の食塩摂取量と生命予後からみた食事管理の検討. 透析会誌 2013 ; 46(11) : 1061-1067.」

2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議

学術委員会の会合を定期的に行い、学術委員会関連小委員会と共同して行うべき学術活動に関して協議・遂行する。

3) 若手医師のための血液浄化療法に関するセミナー等の開催

第59回学術大会と共同して若手医師等を対象としたベーシックセミナー1（英文論文書き方の道しるべ）、ベーシックセミナー4（留学を目指す若手医師のための道しるべ）を開催した。

4) 小委員会活動

(1) 学術専門部小委員会

統計調査委員会と協力し、新たな学術システムの構築の一つである year in review 2014 を第60回日本透析医学会学術集会・総会（平成27年6月）において委員会企画として発表する。

(2) 血液浄化療法の機能・効率に関する学術小委員会

① 第59回日本透析医学会学術集会・総会において学術委員会企画総会委員会企画「新たな透析スケジュールに適合するシステム」を開催した。

② 日本臨床工学技士会、日本医療機器テクノロジー協会人工腎臓部会の協力を得て「ISO対策ワーキン

グループ」を継続し、本邦の見解を ISO 基準へ反映させるべく会議を行った。

- ③ 日本臨床工学技士会、日本血液浄化技術学会の協力を得て透析液濃度測定の標準化について会議を行った。
- ④ 透析液水質基準について追加すべき項目の検討を行った。
- ⑤ 血液透析の透析液処方についてのアンケート調査を行った。

(3) ガイドライン作成小委員会

- ① 当学会のガイドラインの意義、構造、作成・改訂手順を明確化し、「日本透析医学会ガイドライン作成に関わる手順書（仮題）」としてまとめ学会誌に報告すべく活動を行った。

第 59 回学術集会において学術委員会企画「わが国のガイドラインの検証と作成方法を再考する」を開催した。

なお、本小委員会は解散し、ガイドライン作成・改訂等については学術委員会が担当することとした。

- ② 腎性貧血ガイドライン改訂ワーキンググループ（山本裕康グループ長）：引き続き「2008 年版日本透析医学会 慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」の改定作業を行い、第 59 回学術集会において「コンセンサスカンファレンス：すべての CKD 患者に向けた腎性貧血治療ガイドラインの改定」を開催年度末に改訂ガイドライン案をまとめた。

③ 維持血液透析ガイドラインワーキンググループ

- a. 血液透析処方グループ：「維持血液透析ガイドライン：血液透析処方. 透析会誌 2013；46：587-632.」の英語版「Japanese Society for Dialysis Therapy Clinical Guideline for “Maintenance Hemodialysis：Hemodialysis Prescriptions”. Therapeutic Apheresis and Dialysis 2015；19(S1)：67-92.」を上梓した。これをもって活動終了とする。
- b. 血液透析導入グループ：「維持血液透析ガイドライン：血液透析導入. 透析会誌 2013；46：1107-1155.」の英語版「Japanese Society for Dialysis Therapy Clinical Guideline for “Hemodialysis Initiation for Maintenance Hemodialysis”. Therapeutic Apheresis and Dialysis 2015；19(S1)：93-107.」を上梓した。これをもって活動終了とする。
- c. 慢性血液透析療法の非導入/継続中止グループ：「維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言. 透析会誌 2014；47：269-285.」とその英語版「Proposal for the Shared Decision-Making Process Regarding Initiation and Continuation of Maintenance Hemodialysis. Therapeutic Apheresis and Dialysis 2015；19(S1)：108-117.」を上梓した。これをもって活動終了とする。

- ④ バスキュラーアクセスガイドライン改訂ワーキンググループ：「慢性血液透析用バスキュラーアクセスの作製および修復に関するガイドライン. 透析会誌 2011；44：855-937.」の英語版「2011 update Japanese Society for Dialysis Therapy Guidelines of Vascular Access Construction and Repair for Chronic Hemodialysis. Therapeutic Apheresis and Dialysis 2015；19(S1)：1-39.」を上梓した。これをもって活動終了とする。

- ⑤ 透析患者の糖尿病治療ガイドラインワーキンググループ：「血液透析患者の糖尿病治療ガイド 2012. 透析会誌 2012；46：311-357.」の英語版「Best Practice for Diabetic Patients on Hemodialysis 2012. Therapeutic Apheresis and Dialysis 2015；19(S1)：40-66.」を上梓した。これをもって活動終了とする。

- ⑥ 栄養問題検討ワーキンググループ：「成人の維持透析患者に対する食事療法基準」の策定にむけて、統計調査委員会と連携してわが国の透析患者の適切な栄養摂取栄養状態の評価法など、基礎的なデータの収集を行い、栄養評価法についてのテキストを作成すべく活動を行った。

- ⑦ 日本腎臓学会、日本急性血液浄化学会、日本集中治療医学会と共同して策定予定である、わが国の実情にあった急性腎障害（AKI）診療ガイドラインに代表委員を選任し、委員として派遣した。

- ⑧ ガイドライン手順書作成ワーキンググループ：将来の本学会ガイドラインの作成の方向性について、Minds 主催のガイドライン研修会に参加した。
- (4) 血液浄化に関連する新技術検討小委員会
- ① 第 59 回学術集会（平成 26 年 6 月）では、血液浄化に関する新技術検討小委員会「新技術で開拓する新しい血液浄化法」を開催し、平成 25 年度の委員会で議論した成果を持ち寄る形で成果を発表した。
- ② 委員会の成果を具体化するための次の段階として、ものづくり、システム構築についても議論を行った。
- また、各委員の進捗報告のみならず、問題点解決に向けて互いの協力体制の強化についても議論した。
- (5) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会
- 看護師、臨床工学技士、MSW、薬剤師、医師がそれぞれの立場で「教育・研究体制の在り方」について議論・検討した。2015 年度の第 60 回学術集会では医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会企画「各種コメディカルからみた透析療法の変遷と将来」を開催し、各職種学会間の協力・連関の在り方について、それを発表する。
- (6) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会
- コメディカルスタッフ研究助成基金運営規程に基づき、研究助成金の対象者の選定を行った。今年度は以下の 3 名への助成が決定した。（敬称略）
- ① 伊藤真也（名古屋共立病院リハビリテーション課 理学療法士）
「透析患者の潰瘍再発防止に向けた、日常生活動作時の足底にかかる力学的負荷量の検討」
- ② 上谷耕平（池田病院血液浄化センター 作業療法士）
「透析利用者の慢性疼痛に対する超音波療法の効果に関する研究」
- ③ 渡邊孝明（さがみ循環器クリニック 理学療法士）
「末梢神経障害を有する血液透析患者の足圧分布異常を規定する因子の検討：立位ステップ動作時の足圧分布の変化と運動機能の関与」

5. 統計調査委員会

- 1) 2013 年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査の結果を速報として、「図説 わが国の慢性透析療法の現況（2013 年 12 月 31 日現在）」にまとめ、施設会員などに配布するとともにホームページに掲載した。
- 2) 上記調査の詳細を「わが国の慢性透析療法の現況（2013 年 12 月 31 日現在）CD-ROM 版」にまとめ、施設会員などに配布するとともにホームページの会員専用ページに掲載した。
- 3) 「わが国の慢性透析療法の現況（2013 年 12 月 31 日現在）」を 2015 年 1 月の本学会会誌に掲載し、ホームページの会員専用ページにも掲載した。
- 4) 腹膜透析（PD）レジストリ 2013 年末調査報告を 2015 年 1 月の本学会会誌に掲載した。
- 5) 「わが国の慢性透析療法の現況（2012 年 12 月 31 日現在）」を An Overview of Regular Dialysis Treatment in Japan (as of 31 December 2012) として、本学会英文誌に掲載した。
- 6) 2014 年末における「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査を、わが国の全透析施設を対象に行っている。
- 7) 2015 年末に予定されている統計調査について、2015 年 4 月施行の「人を対象とする医学研究に関する倫理指針」に準拠するべく、連結可能匿名化を含め調査の倫理的側面を強化した。
- 8) 上記に基づく統計調査計画書を作成し、2015 年 3 月 9 日の本学会倫理委員会において、さらなる個人情報保護、過去データの匿名化も速やかに連結可能匿名化を行うことを条件に、その倫理的妥当性が承認された。
- 9) 2014 年度は公募研究の募集を行わず、過去採択の公募研究において解析用データファイルの貸与が遅延し

ていたものについては、すべてのデータファイルの送付を完了した。

- 10) 米国腎臓データシステム（USRDS）に対するデータ提供は、例年どおり行った。
- 11) 本学会統計調査から得られる有用な情報をより効果的に会員に還元し、世界に向けて発信することを可能にするため、学術委員会など学会内他委員会から代表を得る形で解析小委員会を組織した。
- 12) データベース管理ワーキンググループの活動停止を受けて、委員会内でデータベース管理を行う体制を設置し、過去のデータベースクリーニングを開始した。
- 13) 委員会会議費の節約と綿密な情報交換を目的に、学会内の Web 会議システムを積極的に利用した。
 - (ア) 統計解析小委員会
 - 1) 疫学解析の専門家を外部委員に招請し、今後の本学会データベースの解析方向性を確認し、解析手法に関わる学習会を 2014 年 12 月 5 日に行った。
 - (イ) 地域協力小委員会
 - 1) 2014 年に新規に開院・閉院した施設を調査し、2014 年末アンケート調査送付施設を決定した。2014 年末調査回収のため、各地域において、未回収施設に対する電話や FAX による督促を行った。
 - 2) 第 59 回日本透析医学会学術集会・総会において、小委員会全体会議を開催し、今後の方針を検討した。
 - (ウ) データベース管理ワーキンググループ
 - 1) 委託業者とともに、過去からの膨大なデータベースの整備を行ってきたが、当初予想した進捗が得られないため本ワーキンググループは活動を終了した。

6. 専門医制度委員会

- 1) 専門医制度委員会
 - (1) 全国規模学術集会として、日本腎臓リハビリテーション学会と日本下肢救済・足病学会を承認した。
 - (2) 生涯教育プログラムを、11 地区の地方学術集会、及び専門医制度委員会が認めた 5 地方学術集会で実施した。
 - (3) 日本小児科学会は、透析専門医の基本領域として小児科専門医を承認した。
- 2) 研修プログラム小委員会
 - (1) 日本専門医機構専門医制度整備指針第 1 版に準じて、専門研修プログラムを改訂した。
 - (2) 専攻医を主として育成する専門研修基幹施設と、専門研修基幹施設で研修できない部分を補う専門研修連携施設による専門研修施設群形成の検討を各都道府県で開始した。
- 3) カリキュラム小委員会
 - (1) 日本専門医機構専門医制度整備指針第 1 版に準じて、専門研修カリキュラムと専門研修マニュアルをまとめた専門研修カリキュラム、専門研修指導マニュアルの改訂に着手した。
 - (2) 透析専門医による急性血液浄化・腎移植・アフェレシスの実施状況を把握するために実施したアンケート調査の結果をもとに、日本アフェレシス学会からの要望で、専門研修カリキュラムと専門研修マニュアルの中で検討中としてあるアフェレシスについての検討も開始した。
 - (3) 透析専門医としての「質」を継続維持していくため、本学会専門医の更新を目指す医師を対象とする「セルフトレーニング問題」を導入しており、編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5 単位）を認定した。なお、専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間 5 年の内 1 回以上正答として義務付けている。問題は学会誌には掲載せず、応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、受付期間は 5 月 1 日～5 月 31 日迄で実施し問題・正解・解説は 9 号に掲載した。
- 4) 専門医認定小委員会
 - (1) 透析専門医として、日本専門医機構から認定を受けるために専門医制度整備指針第 1 版に準じて、現行

の専門医制度とは別に、施行時期理事会一任の規則・規則施行細則を改訂した。

- (2) 日本救急医学会より、救急科専門医を透析専門医の基本領域として追加する要望があり、規則・規則施行細則に追加した。なお、施行時期理事会一任の規則・規則施行細則における追加は、救急科専門医の研修プログラムをみたうえで判断することになった。
- (3) 男女共同参画推進小委員会と共同で実施した女性医師に対するアンケート調査の結果をもとに、妊娠・出産・育児に配慮し、現行の規則・規則施行細則改訂の検討を開始した。
- (4) eラーニング（医療安全、倫理、感染、災害、ガイドライン、診療ガイド、提言など）の検討を開始した。
- (5) 専門医の適正数と年間育成専攻医数の検討を開始した。

5) 専門医試験小委員会

- (1) 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験（問題形式は A タイプ、X2 タイプ）、口頭試問試験の 3 者の総合的な判断で行い、可否を決定した。なお、専門医試験特例緩和措置には 47 名の応募があった。
- (2) 優良な試験問題 400 題のプールを目指して、新規問題の作成および過去の試験問題のブラッシュアップを行い、効率的な試験問題作成を可能にするためデータベース化の検討を開始した。
- (3) 専門医試験問題プールの管理体制についての検討を開始した。
- (4) 専門医制度における倫理の問題についても審議し昨年同様に啓発し、専門医認定試験にも倫理の問題を出題した。
- (5) 特例緩和措置による専門医試験を実施した。

6) 施設認定小委員会

透析専門医として、日本専門医機構から認定を受けるために専門医制度整備指針第 1 版に準じて、現行の専門医制度とは別に、施行時期理事会一任の規則・規則施行細則を改訂した。

7) 専門医認定（専門医認定試験）、専門医認定と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新、の公示・受付・結果等については下記のとおりである。

① 第 25 回専門医認定

申請受付会告	2014 年 3 号～5 号
申請書類受付	2014 年 6 月 1 日～6 月 30 日
申請者数	321 名
(正規申請 274 名, 特別緩和措置 47 名)	
書類審査不適合者数	9 名
(正規申請 4 名, 特別緩和措置 5 名)	
書類審査適合者数	312 名
専門医認定試験（筆答および口頭による学力試験試問）10 月 19 日（第 3 日曜日）	
客観式筆答試験・口頭試問試験受験者数	311 名
客観式筆答試験・口頭試問試験欠席者数	1 名
客観式筆答試験・口頭試問試験不適合者数	38 名
客観式筆答試験・口頭試問試験適合者数	273 名（筆答・口頭試験 合格率 88%）
試験会場	都市センターホテル
適合者数	273 名/321 名（85%）

【専門医更新総数】

更新対象者数	601 名
更新申請者数	577 名

更新適格者数 577名（合格率 100%）
更新申請受付会告 2014年8号～10号
更新申請書類受付 2014年11月1日～11月30日

第5回専門医認定

（1995年度認定・2000年度更新・2005年度更新・2010年度更新）更新認定

更新対象者数 75名
更新申請者数 70名
更新適格者数 70名

第10回専門医認定（1999年度認定・2005年度更新・2010年度更新）更新認定

更新対象者数 176名
更新申請者数 171名
更新適格者数 171名

第15回専門医認定（2005年度認定・2010年度更新）更新認定

更新対象者数 142名
更新申請者数 134名
更新適格者数 134名

第20回専門医認定（2010年度認定）更新認定

更新対象者数 208名
更新申請者数 202名
更新適格者数 202名

② 第25回指導医認定

申請受付会告 2014年10号～12号
申請書類受付 2015年1月5日～2015年1月31日
申請者数 85名
適格者数 75名（合格率 88%）

【指導医更新総数】

更新対象者数 252名
更新申請者数 230名
更新適格者数 230名（合格率 100%）

更新申請受付会告 2014年9号～11号
更新申請書類受付 2014年12月1日～12月31日

第9回指導医認定（1999年度認定・2005年度更新・2010年度更新）更新認定

更新対象者数 59名
更新申請者数 50名
更新適格者数 50名

第10回指導医認定（2000年度認定・2005年度更新・2010年度更新）更新認定

更新対象者数 52名
更新申請者数 51名
更新適格者数 51名

第15回指導医認定（2005年度認定・2010年度更新）更新認定

更新対象者数 75名

更新申請者数	69名
更新適格者数	69名
第20回指導医認定（2010年度認定）更新認定	
更新対象者数	66名
更新申請者数	60名
更新適格者数	60名

③ 第24回認定施設・教育関連施設認定

申請受付会告	2014年4号～6号	
申請書類受付	2014年7月15日～8月15日	
申請施設	認定施設	18施設
	教育関連施設	66施設
適格施設	認定施設	18施設（100%）
	教育関連施設	65施設（98%）

【認定施設更新総数】

更新対象施設数	202施設
認定施設	82施設
教育関連施設	120施設
更新申請施設数	174施設
認定施設	76施設
教育関連施設	98施設
更新適格施設数	173施設
認定施設	75施設
教育関連施設	98施設

更新申請受付会告	2014年4号～6号
更新申請書類受付	2014年7月15日～8月15日

第2回認定施設・教育関連施設認定

（1992年度認定・1995年度更新・2000年度更新・2005年度更新・2010年度更新）更新認定

更新対象施設数	101施設
認定施設	36施設
教育関連施設	65施設
更新申請施設数	90施設
認定施設	35施設
教育関連施設	55施設
更新適格施設数	90施設
認定施設	35施設
教育関連施設	55施設

第9回認定施設・教育関連施設認定（1999年度認定・2005年度更新・2010年度更新）更新認定

更新対象施設数	26施設
認定施設	12施設
教育関連施設	14施設
更新申請施設数	24施設

認定施設	12 施設
教育関連施設	12 施設
更新適格施設数	24 施設
認定施設	12 施設
教育関連施設	12 施設
第 14 回認定施設・教育関連施設認定（2005 年度認定・2010 年度更新）更新認定	
更新対象施設数	55 施設
認定施設	20 施設
教育関連施設	35 施設
更新申請施設数	43 施設
認定施設	17 施設
教育関連施設	26 施設
更新適格施設数	43 施設
認定施設	17 施設
教育関連施設	26 施設
第 19 回認定施設・教育関連施設認定（2010 年度認定）更新認定	
更新対象施設数	20 施設
認定施設	14 施設
教育関連施設	6 施設
更新申請施設数	17 施設
認定施設	12 施設
教育関連施設	5 施設
更新適格施設数	16 施設
認定施設	11 施設
教育関連施設	5 施設

④ 各小委員会の認定状況（2015 年 4 月 23 日現在で記載）

専門医数	5,410 名	※休会者・保留者含む
指導医数	1,952 名	※休会者・保留者含む
認定施設数	454 施設	
教育関連施設数	640 施設	
施設認定数計	計 1,094 施設	

7. 国際学術交流委員会

1) 第 59 回日本透析医学会学術集会・総会において、シンポジウム、アジアの夕べおよび一般演題の委員会セッションを行った。

(1) シンポジウム #1 “AKI : Diagnosis and Future Prospect”（日本腎臓学会および日本急性血液浄化学会後援）

Moderators : Drs. Yoshitake Isaka, Kent Doi

- ① Dr. Kent Doi (Japan)
- ② Dr. Zoltan H. Endre (Australia)
- ③ Dr. Ravindra L. Mehta (USA)

- ④ Dr. Yukio Yuzawa (Japan)
- ⑤ Drs. Yoshitsugu Takabatake, Yoshitaka Isaka (Japan)
- (2) シンポジウム #2 “Dialysis Registry in the World” (大会長企画に当委員会として連携, 協力)

Moderators : Drs. Allan Collins, Kunitoshi Iseki

- ① Dr. Allan J. Collins (USA)
 - ② Dr. Kitty Jager (EDTA)
 - ③ Dr. Stephan McDonald (ANZDATA)
 - ④ Dr. Dong Chan Jin (Korea)
 - ⑤ Dr. Philip K.T. Li (Hong Kong)
 - ⑥ Drs. Takayuki Hamano, Kunitoshi Iseki, Yoshiharu Tsubakihara (JSDT)
- (2) 一般演題 4カ国から10演題があり, 発表を行った.
 - (3) Welcome Reception に関して
2014年6月13日(金)19:00~21:00に, 神戸ポートピアホテル南館4階レヴァンテで第59回日本透析医学会学術集会・総会主催により開催し, 本委員会でサポートした.
 - (4) Farewell Reception に関して
2014年6月14日(土)19:00~21:00に, 神戸ポートピアホテル本館30階プレントワールで, 本委員会主催, 費用負担により開催した.
 - (5) 本委員会による海外参加者のためのサポートとして, シンポジスト渡航費2名分(各50万), 招待者謝金2名(各10万円), 同宿泊費(16万円), 一般口演発表者へのトラベルグラント(各10万円)を支払った.
- 2) 第7回国際血液透析学会議への協力
平成26年4月25~27日に井関大会長が開催した7th Congress of the International Society for Hemodialysisにおいて, Domestic Organizing Committeeとして参加し協力した.
 - 3) 透析に関する国内開催国際学会への積極的支援
アジア太平洋腎臓学会議を周知し参加を積極的に呼びかけるなど, 国内開催国際学会へ積極的に支援を行い, 本学会の国際的地位向上に努めた.
 - 4) 海外で開催される透析関連の学術交流目的の会議等へ委員・会員の派遣等の支援
本年度は派遣を見送った.

8. 評議員選出委員会

評議員の任期は2年であるため, 平成26年度は選出を行わなかった.

9. 保険委員会

平成28年度保険改定に向けて内科系社会保険連合(内保連)の血液浄化委員会, 日本腎臓学会, 日本アフェレシス学会, 日本急性血液浄化学会, 日本小児腎臓病学会, 日本腹膜透析医学会ならびに日本透析医会と連携して提案項目の検討を行った. その結果, 1) J038 人工腎臓実施回数「1月に14回に限る」の回数制限の変更, 2) 新規腹膜透析患者が在宅治療移行後10日間の訪問看護を提案することになった.

「透析液水質確保に関する研修」を専門医制度委員会が認定している地方学術集会ならびに全国規模学術集会において実施した.

10. 倫理委員会

1) 倫理委員会の開催

統計調査委員会から、統計調査の匿名化について倫理審査の申請があり、平成27年2月23日倫理委員会を開催し審議した結果、条件付きで承認し、理事長に答申をした。

2) 個人情報管理

個人情報（評議員、正会員氏名、所属）の提供依頼があり、

(1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第4条関係）

14件の申請があり、いずれも承認した。

(2) 個人情報管理者、理事長、常任理事の合意で決定し、理事会の承認を得るもの（第8条第4項関係）

申請がなかった。

11. 腎不全総合対策委員会

1) 腎移植の普及に努めた。

(1) 腎移植への理解を深めるため、日本移植学会、日本臨床腎移植学会と共同にて、日本透析医学会学術集会・総会、および関連学会・研究会などで臓器移植ネットワークの活動内容の紹介を含め、移植、特に献腎移植や生体腎移植の啓発活動を行った。

(2) 医療側、患者側の治療法選択と施設選択に役立てるために、上記学会と協力し合い末期腎不全統計の詳細な公開を積極的に進めた。2014年6月第59回日本透析医学会学術集会において委員会報告として行った。

腎不全総合対策委員会ワーキンググループでは、今年度も末期腎不全統計、preemptive腎移植、保存期腎不全治療、腎代替法の現況を継続的に集約し報告する筋道をたてた。さらにその成果を学会Web、商業誌、monographなどで公開することを申し合わせた。

(3) ドナー不足に対して、各種学会・研究会などにおいて、臓器提供カードの配布を推進し、臓器提供の増加をはかった。また生体腎移植の実態について啓発を行った。

(4) 会員に、改定された「臓器の移植に関する法律」のガイドラインについて広報し、「旅行移植」、「病腎移植」の問題についても積極的な啓発活動を行った。

2) 慢性腎臓病（CKD）対策を講じた。

(1) 日本腎臓学会、厚生労働省が支援している進行性腎障害に関する調査研究班、本学会統計調査委員会と協力し、円滑なレジストレーション、および腎臓病（腎生検）記録カードによる有益なデータ解析が行えるように体制を継続して強化した。

(2) 小児についても、日本小児腎臓病学会を加えた上記機構で同様に進めた。

(3) 厚生労働省が支援し、現在日本腎臓学会で行われている、CKD重症予防対策についても継続して協力した。

3) 腹膜透析の普及に努めた。

(1) 日本透析医学会で作成された腹膜透析に関するガイドラインを基に教育セミナーなどを行うよう、透析医学会内で推進し、それらへの参加を会員に呼びかけた。

(2) 日本腎臓学会にも働きかけ、腎代替療法の一つとしての腹膜透析を患者に十分説明できるよう、腎臓専門医に対し啓発活動を行った。

(3) 治療の標準化を推進するための方策として、現在のPD医療において、何が問題なのかを腹膜透析医学会や腎臓学会、小児腎臓病学会などと連携し、アンケート調査をもとにあぶりだすこととした。

4) 腎代替療法の治療選択に対する公平性の維持に努めた。

- (1) 腎不全患者が末期腎不全治療の選択が適正に行えるよう、日本腎臓学会、日本移植学会と合同で「末期腎不全治療選択」小冊子を改訂し、作成 DVD を増刷し配布と普及に努めた。

12. 危機管理委員会

- 1) 東日本大震災学術調査ワーキンググループの作成した報告書、災害時の透析治療の展開に関わる提言書を、自治体、災害対策関連団体、透析関連団体に送付し、災害下の透析医療の整備に関する啓発活動を行った。
- 2) 災害時透析医療に関する諸課題を検討したうえで、第 60 回日本透析医学会学術集会・総会、委員会企画「災害時透析医療におけるコンセンサス」を企画立案した。
- 3) 災害時透析医療に関して、災害関連の学会等において発表を行った。
「Proposals for the preparation of Dialysis Therapy under Disaster from the survey of the East Japan Great Earthquake Disaster」(防災・減災に関する国際研究のための東京会議、平成 27 年 1 月、東京)
「大規模災害時の維持透析の展開について」(第 20 回日本集団災害医学会総会、パネルディスカッション「慢性疾患への対応」、平成 27 年 2 月、立川)
「Proposals for the preparation of Dialysis Therapy under Disaster from the survey of the East Japan Great Earthquake Disaster」(World Congress of Nephrology 2015、平成 27 年 3 月、Cape Town)
- 4) 各都道府県の災害時透析医療を担当する透析関連団体を対象に、日本透析医会の協力を得て、地域透析医療災害対策の現状についてのアンケート調査を作成し、実施した。
- 5) 日本透析医学会の理事、統計調査委員会地域協力員は今年度も引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力した。
- 6) 厚生労働省等から報告される、薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で、透析医療に関わるものについて、日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図った。
- 7) 日本医療安全調査機構の事業に引き続き参画した。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

- 1) 「日本透析医学会医学研究の利益相反に関する指針」に基づき、利益相反状態に関連した以下の事項を実施した。
 - (1) 会員が総会等で発表する際の利益相反状態に関する情報開示
 - (2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
 - (3) 本学会の役員（理事長、理事、監事）、総会会長、委員会委員長、特定の委員会ならびにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出
なお、会員の重大な利益相反状態や自己申告内容に関する疑義等の指摘はなく、それに伴う当委員会の開催はなかった。
- 2) 「日本透析医学会医学研究の利益相反に関する指針」及び「医学研究の利益相反に関する指針」に関する取扱細則の整備
2014 年 8 月 22 日に研究者の利益相反等検討委員会を開催し、日本医学会「医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン（2014 年 2 月改訂）」に基づき、本学会の利益相反（COI）に関する指針ならびに取り扱い細則の見直しについて検討した。同年 11 月 7 日および 2015 年 3 月 27 日の理事会に指針ならびに取り扱い細則の改定案を提示し、承認を受けた。

Ⅱ. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	新田孝作	平成26年6月12日～ 選任後2年以内に終了する事業年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
常任理事	武本佳昭	同	非常勤	なし	
同	中西健	同	非常勤	なし	
同	水口潤	同	非常勤	なし	
理事	安藤亮一	同	非常勤	なし	
同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
同	伊丹儀友	同	非常勤	なし	
同	稲葉雅章	同	非常勤	なし	
同	岡田一義	同	非常勤	なし	
同	重松隆	同	非常勤	なし	
同	土谷健	同	非常勤	なし	
同	友雅司	同	非常勤	なし	
同	中元秀友	同	非常勤	なし	
同	林松彦	同	非常勤	なし	
同	藤元昭一	同	非常勤	なし	
同	政金生人	同	非常勤	なし	
同	峰島三千男	同	非常勤	なし	
同	森石みさき	同	非常勤	なし	
同	八木澤隆	同	非常勤	なし	
同	吉田克法	同	非常勤	なし	

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	相川厚	平成26年6月12日～ 選任後2年以内に終了する事業年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
同	宍戸寛治	同	非常勤	なし	
同	仲谷達也	同	非常勤	なし	

(3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	相川 厚	平成26年6月12日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	赤井 靖宏	同	非常勤	なし	
3	同	浅野 友彦	同	非常勤	なし	
4	同	阿部 貴弥	同	非常勤	なし	
5	同	阿部 雅紀	同	非常勤	なし	
6	同	雨宮 守正	同	非常勤	なし	
7	同	荒川 俊雄	同	非常勤	なし	
8	同	有蘭 健二	同	非常勤	なし	
9	同	有村 徹朗	同	非常勤	なし	
10	同	安藤 哲郎	同	非常勤	なし	
11	同	安藤 稔	同	非常勤	なし	
12	同	安藤 康宏	同	非常勤	なし	
13	同	安藤 亮一	同	非常勤	なし	
14	同	家原 典之	同	非常勤	なし	
15	同	猪阪 善隆	同	非常勤	なし	
16	同	石光 俊彦	同	非常勤	なし	
17	同	和泉 雅章	同	非常勤	なし	
18	同	板垣 信生	同	非常勤	なし	
19	同	伊丹 儀友	同	非常勤	なし	
20	同	井出 健太郎	同	非常勤	なし	
21	同	伊藤 哲二	同	非常勤	なし	
22	同	伊東 稔	同	非常勤	なし	
23	同	伊藤 恭彦	同	非常勤	なし	
24	同	稲葉 雅章	同	非常勤	なし	
25	同	今田 崇裕	同	非常勤	なし	
26	同	今田 直樹	同	非常勤	なし	
27	同	今福 俊夫	同	非常勤	なし	
28	同	植木 嘉衛	同	非常勤	なし	
29	同	宇田 晋	同	非常勤	なし	
30	同	内田 信一	同	非常勤	なし	
31	同	宇津 貴	同	非常勤	なし	
32	同	大城戸 一郎	同	非常勤	なし	
33	同	大城 吉則	同	非常勤	なし	
34	同	大園 誠一郎	同	非常勤	なし	
35	同	大田 和道	同	非常勤	なし	
36	同	大家 基嗣	同	非常勤	なし	
37	同	大山 力	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	岡田一義	同	非常勤	なし	
39	同	岡田浩一	同	非常勤	なし	
40	同	尾形聡	同	非常勤	なし	
41	同	緒方浩顕	同	非常勤	なし	
42	同	小川哲也	同	非常勤	なし	
43	同	小川智也	同	非常勤	なし	
44	同	奥野仙二	同	非常勤	なし	
45	同	小倉誠	同	非常勤	なし	
46	同	小田寛	同	非常勤	なし	
47	同	角田隆俊	同	非常勤	なし	
48	同	笠井健司	同	非常勤	なし	
49	同	風間順一郎	同	非常勤	なし	
50	同	春日弘毅	同	非常勤	なし	
51	同	加藤明彦	同	非常勤	なし	
52	同	金井英俊	同	非常勤	なし	
53	同	金山博臣	同	非常勤	なし	
54	同	川合徹	同	非常勤	なし	
55	同	河田哲也	同	非常勤	なし	
56	同	菅政治	同	非常勤	なし	
57	同	菅野義彦	同	非常勤	なし	
58	同	北村真	同	非常勤	なし	
59	同	衣笠えり子	同	非常勤	なし	
60	同	木全直樹	同	非常勤	なし	
61	同	久野勉	同	非常勤	なし	
62	同	熊谷裕生	同	非常勤	なし	
63	同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
64	同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
65	同	小林絵美	同	非常勤	なし	
66	同	小林正貴	同	非常勤	なし	
67	同	小松康宏	同	非常勤	なし	
68	同	小藪助成	同	非常勤	なし	
69	同	齋藤修	同	非常勤	なし	
70	同	齋藤満	同	非常勤	なし	
71	同	酒井謙	同	非常勤	なし	
72	同	坂口美佳	同	非常勤	なし	
73	同	佐々木環	同	非常勤	なし	
74	同	笹富佳江	同	非常勤	なし	
75	同	佐藤滋	同	非常勤	なし	
76	同	佐藤隆	同	非常勤	なし	
77	同	佐藤武司	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	佐藤 壽伸	同	非常勤	なし	
79	同	佐藤 正嗣	同	非常勤	なし	
80	同	佐藤 元美	同	非常勤	なし	
81	同	三馬 省二	同	非常勤	なし	
82	同	重松 隆	同	非常勤	なし	
83	同	宍戸 寛治	同	非常勤	なし	
84	同	篠田 俊雄	同	非常勤	なし	
85	同	柴垣 有吾	同	非常勤	なし	
86	同	柴原 伸久	同	非常勤	なし	
87	同	柴原 宏	同	非常勤	なし	
88	同	島田 久基	同	非常勤	なし	
89	同	島野 泰暢	同	非常勤	なし	
90	同	庄司 哲雄	同	非常勤	なし	
91	同	新宅 究典	同	非常勤	なし	
92	同	杉本 俊門	同	非常勤	なし	
93	同	杉山 齐	同	非常勤	なし	
94	同	鈴木 一裕	同	非常勤	なし	
95	同	鈴木 寿英	同	非常勤	なし	
96	同	鈴木 大	同	非常勤	なし	
97	同	鈴木 祐介	同	非常勤	なし	
98	同	清野 耕治	同	非常勤	なし	
99	同	副島 一晃	同	非常勤	なし	
100	同	武田 一人	同	非常勤	なし	
101	同	竹中 恒夫	同	非常勤	なし	
102	同	竹本文 美	同	非常勤	なし	
103	同	武本 佳昭	同	非常勤	なし	
104	同	田中 元子	同	非常勤	なし	
105	同	田邊 一成	同	非常勤	なし	
106	同	田畑 勉	同	非常勤	なし	
107	同	田原 英樹	同	非常勤	なし	
108	同	玉井 宏史	同	非常勤	なし	
109	同	田村 禎一	同	非常勤	なし	
110	同	田村 雅仁	同	非常勤	なし	
111	同	塚本 雄介	同	非常勤	なし	
112	同	土田 健司	同	非常勤	なし	
113	同	土谷 健	同	非常勤	なし	
114	同	鶴岡 秀一	同	非常勤	なし	
115	同	鶴田 良成	同	非常勤	なし	
116	同	寺脇 博之	同	非常勤	なし	
117	同	土井 盛博	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	富永芳博	同	非常勤	なし	
119	同	友雅司	同	非常勤	なし	
120	同	戸谷義幸	同	非常勤	なし	
121	同	中井滋	同	非常勤	なし	
122	同	中岡明久	同	非常勤	なし	
123	同	中里優一	同	非常勤	なし	
124	同	中澤速和	同	非常勤	なし	
125	同	長沢正樹	同	非常勤	なし	
126	同	中島一朗	同	非常勤	なし	
127	同	中島貞男	同	非常勤	なし	
128	同	長田太助	同	非常勤	なし	
129	同	仲谷達也	同	非常勤	なし	
130	同	中西健	同	非常勤	なし	
131	同	長沼俊秀	同	非常勤	なし	
132	同	中村典雄	同	非常勤	なし	
133	同	中元秀友	同	非常勤	なし	
134	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
135	同	中山昌明	同	非常勤	なし	
136	同	鍋島邦浩	同	非常勤	なし	
137	同	成瀬友彦	同	非常勤	なし	
138	同	西慎一	同	非常勤	なし	
139	同	西川慶一郎	同	非常勤	なし	
140	同	錦戸雅春	同	非常勤	なし	
141	同	西野友哉	同	非常勤	なし	
142	同	新田孝作	同	非常勤	なし	
143	同	新田豊	同	非常勤	なし	
144	同	根木茂雄	同	非常勤	なし	
145	同	野崎剛	同	非常勤	なし	
146	同	橋本哲也	同	非常勤	なし	
147	同	橋本寛文	同	非常勤	なし	
148	同	蓮池由起子	同	非常勤	なし	
149	同	長谷弘記	同	非常勤	なし	
150	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
151	同	服部元史	同	非常勤	なし	
152	同	花岡一成	同	非常勤	なし	
153	同	花房規男	同	非常勤	なし	
154	同	濱田千江子	同	非常勤	なし	
155	同	林晃一	同	非常勤	なし	
156	同	林晃正	同	非常勤	なし	
157	同	林松彦	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	樋口千恵子	同	非常勤	なし	
159	同	樋口輝美	同	非常勤	なし	
160	同	兵藤透	同	非常勤	なし	
161	同	平和伸仁	同	非常勤	なし	
162	同	深川雅史	同	非常勤	なし	
163	同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
164	同	深水圭	同	非常勤	なし	
165	同	藤井秀毅	同	非常勤	なし	
166	同	藤元昭一	同	非常勤	なし	
167	同	藤森明	同	非常勤	なし	
168	同	測之上昌平	同	非常勤	なし	
169	同	古井秀典	同	非常勤	なし	
170	同	古藺勉	同	非常勤	なし	
171	同	古谷隆一	同	非常勤	なし	
172	同	洞和彦	同	非常勤	なし	
173	同	保利敬	同	非常勤	なし	
174	同	前野七門	同	非常勤	なし	
175	同	前波輝彦	同	非常勤	なし	
176	同	政金生人	同	非常勤	なし	
177	同	正木崇生	同	非常勤	なし	
178	同	正木浩哉	同	非常勤	なし	
179	同	松下和通	同	非常勤	なし	
180	同	松田昭彦	同	非常勤	なし	
181	同	松橋尚生	同	非常勤	なし	
182	同	満生浩司	同	非常勤	なし	
183	同	水口潤	同	非常勤	なし	
184	同	峰島三千男	同	非常勤	なし	
185	同	三股浩光	同	非常勤	なし	
186	同	宮崎真理子	同	非常勤	なし	
187	同	宮崎良一	同	非常勤	なし	
188	同	宮田昭	同	非常勤	なし	
189	同	宮本賢一	同	非常勤	なし	
190	同	向山政志	同	非常勤	なし	
191	同	武藤重明	同	非常勤	なし	
192	同	村上円人	同	非常勤	なし	
193	同	室谷典義	同	非常勤	なし	
194	同	望月隆弘	同	非常勤	なし	
195	同	森典子	同	非常勤	なし	
196	同	森石みさき	同	非常勤	なし	
197	同	八木澤隆	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	柳田 太平	同	非常勤	なし	
199	同	山内 淳	同	非常勤	なし	
200	同	山縣 邦弘	同	非常勤	なし	
201	同	山川 智之	同	非常勤	なし	
202	同	山下 明泰	同	非常勤	なし	
203	同	山中 正人	同	非常勤	なし	
204	同	山本 裕康	同	非常勤	なし	
205	同	横山 啓太郎	同	非常勤	なし	
206	同	横山 建二	同	非常勤	なし	
207	同	吉田 篤博	同	非常勤	なし	
208	同	吉田 一成	同	非常勤	なし	
209	同	吉田 克法	同	非常勤	なし	
210	同	吉田 英昭	同	非常勤	なし	
211	同	吉武 理	同	非常勤	なし	
212	同	吉本 充	同	非常勤	なし	
213	同	吉矢 邦彦	同	非常勤	なし	
214	同	米田 龍生	同	非常勤	なし	
215	同	竜崎 崇和	同	非常勤	なし	
216	同	脇野 修	同	非常勤	なし	
217	同	鷺田 直輝	同	非常勤	なし	
218	同	和田 篤志	同	非常勤	なし	
219	同	和田 隆志	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等

氏名	退任時の地位	退任日	退任理由	備考
川西 秀樹	常任理事	平成26年6月12日	任期満了による	
平方 秀樹	常任理事	同	同	
衣笠 えり子	理事	同	同	
椿原 美治	同	同	同	
深川 雅史	同	同	同	
山縣 邦弘	同	同	同	
横山 啓太郎	同	同	同	
渡邊 有三	同	同	同	
秋葉 隆	監事	同	同	
土谷 健	同	同	同	

(5) 役員等の報酬等

区 分	人 数	報酬等の総額	備 考
理 事	20名	なし	
監 事	3名	なし	
評 議 員	219名	なし	
合 計	242名		

② 会員に関する事項

会員種別	員 数		増 減 数	摘 要
	本年度末	前年度末		
	平成 27 年 3 月 31 日現在	平成 26 年 3 月 31 日現在		
正 会 員	12,923	12,648	275	
施設会員	3,987	3,936	51	
賛助会員	73	75	-2	
名誉会員	45	42	3	
計	17,028	16,701	327	

③ 職員に関する事項

平成 26 年度末現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	常 勤	齋 藤 良 雄	平成 23 年 4 月 1 日	総 括 管 理	

④ 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 26 年 5 月 23 日 第 1 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入退会に関する件 2. 平成 26 年度日本透析医学会賞（木本賞）・奨励賞の選考に関する件 3. 平成 25 年度事業報告（案）に関する件 4. 平成 25 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等についての承認に関する件 5. 平成 25 年度公益目的支出計画実施報告書の承認に関する件 6. 平成 25 年度監事による監査報告に関する件 7. 第 59 回通常総会開催に関する件 8. 臨時総会の開催に関する件 9. 役員選任に伴う立会人に関する件 10. 規則等の一部改正に関する件 11. 「維持血液透析ガイドライン：血液透析導入」（英文版）に関する件 12. 「維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」（塩分版）に関する件 13. 第 59 回学術集会・総会開催時の各賞表彰式次第（案）に関する件 14. 第 59 回学術集会・総会開催中の Welcome Reception 及び Farewell Reception（案）の開催に関する件 15. 専門医制評価・認定機構の専門医認定に関わる整備に関する件 16. 「AKI 診療ガイドライン（案）」の作成および委員推薦に関する件 17. 総務委員会「発展途上国の若手医師・コメディカルに対する研修サポート小委員会」の委員会設置に関する件 18. TAD の著作権、著作権等の取り決めに関する件 19. 医療ニーズの高い未承認医療機器等の早期導入に関する要望の募集に関する件 20. 第 59 回（平成 26 年度）学術集会・総会について 21. 第 60 回（平成 27 年度）学術集会・総会について 22. 第 61 回（平成 28 年度）学術集会・総会について 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認</p>
平成 26 年 6 月 12 日 第 2 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入退会に関する件 2. 第 62 回（平成 29 年度）会長選出に関する件 3. 通常総会及び臨時総会の進行に関する件 4. 現行規則の一部改正（案）に関する件 5. 専門医制評価・認定機構の認定に関わる専門医制度規則等の整備に関する件 6. 投稿論文の二重投稿に関する件 7. 医療用具取り違え事故に対する要望に関する件 8. 「慢性腎不全診療最適化による新規透析導入減少実現のための診療システム構築に関する研究」に対する協力に関する件 9. 第 60 回（平成 27 年度）学術集会・総会に関する件 10. 第 61 回（平成 28 年度）学術集会・総会に関する件 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>
平成 26 年 6 月 12 日 第 3 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理事長（代表理事）選定の件 2. 常任理事の選定の件 3. 常置委員会委員長・小委員会委員長及び委員の委嘱に関する件 4. 対外委員に関する件 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>
平成 26 年 7 月 21 日 第 4 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入退会に関する件 2. 現行規則等の一部改正（案）に関する件 3. 第 60 回学術集会・総会の副会長選任に関する件 4. 幹事の交替に関する件 5. 常置委員会 小委員会委員長等及び委員の選任に関する件 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 27 年 3 月 27 日 第 6 回理事会	16. 「慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」(案) の作成に関する件 17. 透析液水質確保に関する所定の研修に関する件 18. 発展途上国の若手医師・コメディカルに対する研修受け入れアンケート調査に関する件 19. 「PD 医療に関する問題点についてのアンケート調査 (案)」に関する件 20. MDIC 認定更新に必要なポイントを付与する主催団体加盟に関する件 21. 第 60 回 (平成 27 年度) 学術集会・総会に関する件 22. 第 61 回 (平成 28 年度) 学術集会・総会に関する件 23. 第 62 回 (平成 29 年度) 学術集会・総会に関する件 24. 理事会等の日程に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

(2) 総 会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 26 年 6 月 12 日 通常総会	1. 平成 24 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等についての承認に関する件 2. 名誉会員の推薦に関する件 3. 日本透析医学会専門医制度規則の一部改正 (案) に関する件 4. 日本透析医学会専門医制度規則施行細則の一部改正 (案) に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
平成 26 年 6 月 12 日 臨時総会	1. 立会人の選出に関する件 2. 役員 (理事 20 名, 監事 3 名) の選任に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認

(3) 各種委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・総務委員会	「該 当 な し」	
・財務委員会 平成 27 年 3 月 13 日	1. 平成 26 年度補正予算 (案) について 2. 平成 27 年度新規事業計画に伴う概算要求 (案) について 3. 平成 27 年度予算 (案) について	全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認
・編集委員会 和文誌運営委員会 平成 26 年 8 月 29 日 平成 26 年 11 月 3 日 平成 27 年 1 月 30 日	1. 日本透析医学会の新規欧文誌の創刊に関する件 2. 新規欧文誌創刊のロードマップの策定に関する件 1. 新規欧文誌の創刊出版社の推薦順位の決定に関する件 2. 新規欧文誌のタイトルに関する件 1. 新規欧文誌の編集業務の立案：専門分野の分類に関する件	全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認
・学術委員会 平成 26 年 5 月 2 日 平成 26 年 9 月 26 日	1. 学会賞 (木本賞)・奨励賞の選考に関する件 2. 名誉会員・学会賞・奨励賞及びコメディカルスタッフ研究助成授与式に関する件 1. 今後の活動計画に関する件 2. 学術専門部小委員会との連携に関する件 3. 統計調査委員会との連携に関する件 4. 現存 GL についての問題点	全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認
・統計調査委員会 平成 26 年 5 月 23 日	1. DB 管理 WG について	報告・承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 26 年 8 月 8 日	2. 2013 年調査について 3. 2013 年「図説現況」の原稿確認 4. 公募研究・委員会研究の進捗状況	報告・承認 報告・承認 報告・承認
平成 26 年 9 月 12 日	1. 2014 年調査について 2. メーリングリストについて 3. 現況報告作成方針について 4. 公募研究・委員会研究について 5. 今年度末調査について 6. 委員会の中長期タスクについて	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
平成 27 年 1 月 23 日	1. 統計調査委員会としての方向性確認について 2. データベースに関連した課題について 3. 生存率の計算について	報告・承認 報告・承認 報告・承認
平成 27 年 3 月 20 日	1. 平成 27 年度事業計画について 2. データベースの匿名化について 3. 研究を目的としたデータベース作成における名寄せ手法の考察について 4. 委員の業務分担について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・ 専門医制度委員会 平成 26 年 9 月 18 日	1. 2014 年度（第 25 回）専門医認定申請審査結果について 2. 2014 年度専門医認定試験について 3. 2014 年度専門医更新該当者へのセルフトレーニング問題について 4. 日本透析医学会全国規模学術集会追加認定について 5. 日本専門医機構による透析専門医非承認の場合の対応について 6. 研修カリキュラム案と試験問題解説集について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
平成 26 年 10 月 30 日	1. 2014 年度専門医認定試験審査結果について 2. 2014 年度認定施設・教育関連施設（新規・更新）審査報告について 3. 日本専門医機構の現状報告について 4. 日本専門医機構による透析専門医非承認の場合の対応について 5. 今後の専門医制度委員会の運営方法について 6. 女性医師への専門医取得及び更新に関するアンケート調査結果について	全会一致で承認 全会一致で承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
平成 27 年 3 月 20 日	1. 専門医認定更新審査について 2. 第 25 回（2014 年度）指導医認定更新新規申請について 3. 指導医認定更新申請審査について 4. 専門医・指導医更新のための e-ラーニングについて 5. 日本救急医学会からの専門医申請資格に関する依頼について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・ 国際学術交流委員会 平成 26 年 4 月 26 日	1. 2014 年度学術集会開催時の委員会企画について 2. 2013 年度本委員会予算執行について 3. 平成 26 年度事業計画について	報告・承認 報告・承認 報告・承認
平成 26 年 8 月 22 日	1. 2015 年度学術集会開催時の委員会企画について	全会一致で承認
・ 評議員選出委員会	「該当なし」	
・ 保険委員会 平成 26 年 4 月 11 日	1. 平成 26 年度診療報酬改定の現状と反省について 2. 腹膜透析併用療法の問題とその対策について 3. 慢性透析医学管理料の問題と対策について 4. 平成 28 年度診療報酬改定への対策について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 26 年 11 月 21 日	5. 費用対効果について 6. 事業報告の確認について 1. 平成 28 年度診療報酬改定について 2. 平成 28 年度診療報酬改定への対策について 3. 費用対効果について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・倫理委員会 平成 27 年 2 月 23 日	1. 統計調査研究計画に関する件	全会一致承認
・腎不全総合対策委員会 平成 27 年 2 月 1 日	1. 本委員会の今後の方針について 2. 2015 年度学術集会開催時の委員会企画案について 3. PD 普及について	報告・承認 報告・承認 報告・承認
・危機管理委員会 平成 26 年 5 月 9 日	1. 事前に危機管理委員会委員から寄せられた活動計画や災害時患者情報伝達に関する意見について 2. 意見交換について 3. 今後の活動内容について 4. その他のテーマについて	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・研究者の利益相反等 検討委員会 平成 26 年 8 月 22 日	1. 指針及び取扱細則の見直し（案）について	継続審議

⑤ 許可，認可，承認等に関する事項

申請月日	申請事項	許可等月日	備考
	「該当なし」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約の概要
	「該当なし」	

事業報告の附属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理事長	新 田 孝 作	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	
		日本慢性腎臓病対策協議会	理 事	
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	
常任理事	水 口 潤	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	副理事長	
		特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	理 事	
		特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	
		公益財団法人 とくしま移植医療推進財団	理 事	
		公益社団法人 日本臨床工学技士会	理 事	
	中 西 健	一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部
	武 本 佳 昭	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
特定非営利活動法人 日本アクセス研究会		監 事	一 部	
理 事	安 藤 亮 一	一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部
		一般社団法人 三多摩腎疾患治療医会	副理事長	
	猪 阪 善 隆	一般社団法人 日本腎臓学会	幹 事	一 部
	伊 丹 儀 友	一般社団法人 日本小児腎臓病学会	理 事	
		日本小児腎不全学会	監 事	
		一般社団法人 日本アフェレシス学会	理 事	
	稲 葉 雅 章	一般社団法人 日本骨粗鬆症学会	理 事	
		日本骨形態計測学会	理 事	
		日本運動療法学会	理 事	
		日本疲労学会	理 事	
		日本マグネシウム学会	理 事	
		公益財団法人 大阪腎バンク	理 事	
	岡 田 一 義	認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	
	重 松 隆	一般財団法人 和歌山腎臓財団	理事長	一 部
		公益財団法人 和歌山県角膜・腎臓移植推進協会	理 事	
	土 谷 健	一般社団法人 バイオマーカー研究会	代表理事	
	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	
	中 元 秀 友	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		日本医工学治療学会	理 事	一 部
		日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 LINE	理事長	
峰 島 三 千 男	一般社団法人 日本アフェレシス学会	理 事	一 部	
	特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理事長	一 部	
吉 田 克 法	一般社団法人 日本移植学会	理 事		

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
監 事	相 川 厚	一般社団法人 日本移植学会	理 事	
		公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク	理 事	
	仲 谷 達 也	一般財団法人 大阪腎泌尿器疾患研究財団	代表理事	
		公益財団法人 大阪腎バンク	常任理事	
		一般社団法人 日本泌尿器科学会	理 事	

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。